

伊丹福音ルーテル教会 四旬節第一主日礼拝のしおり

2023年2月26日

前奏

招きのことば：詩編 32 編 8-11 節

わたしはあなたを目覚めさせ 行くべき道を教えよう。
あなたの上に目を注ぎ、勧めを与えよう。
分別のない馬やらばのようにふるまうな。
それは くつわと手綱で動きを抑えねばならない。
そのようなものをあなたに近づけるな。
神に逆らう者は悩みが多く 主に信頼する者は慈しみに囲まれる。
神に従う人よ、主によって喜び躍れ。すべて心の正しい人よ、喜びの声をあげよ。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。
私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

人生には自分の思っていなかった外からの試練があります。また自分の内からこみあげる貪欲によって誘惑されます。冷たい人の声にも大いに惑わされます。人生には落とし穴がたくさんあるのです。イエス様は悪魔の誘惑に会いました。しかし、勝利をおさめられました。それは食べ物よりもまず聖書のみ言葉を優先させたからです。今後のことを直感や雰囲気では軽はずみに決断して運まかせにしないで、自覚してよく祈って決めたからです。世渡りのためと言って悪いと知りつつ近道を通らないで、自分に与えられた使命にまっすぐ向き合いました。私たちはイエス様を信じて罪を赦されて新しいいのちを歩みます。試練の中で信仰が鍛えられます。忍耐が必要ですが、共にへりくだってまっすぐに歩みましょう。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：ローマの信徒への手紙 5章 12-19節

このようなわけで、一人の人によって罪が世に入り、罪によって死が入り込んだように、死はすべての人に及んだのです。すべての人が罪を犯したからです。律法が与えられる前にも罪は世にあったが、律法がなければ、罪は罪と認められないわけです。しかし、アダムからモーセまでの間にも、アダムの違犯と同じような罪を犯さなかった人の上にさえ、死は支配しました。実にアダムは、来るべき方を前もって表す者だったのです。しかし、恵みの賜物は罪とは比較になりません。一人の罪によって多くの人が死ぬことになったとすれば、なおさら、神の恵みと一人の人イエス・キリストの恵みの賜物とは、多くの人に豊かに注がれるのです。この賜物は、罪を犯した一人によってもたらされたようなものではありません。裁きの場合、一つの罪でも有罪の判決が下されますが、恵みが働くときには、いかに多くの罪があっても、無罪の判決が下されるからです。一人の罪によって、その一人を通して死が支配するようになったとすれば、なおさら、神の恵みと義の賜物とを豊かに受けている人は、一人のイエス・キリストを通して生き、支配するようになるのです。そこで、一人の罪によってすべての人に有罪の判決が下されたように、一人の正しい行為によって、すべての人が義とされて命を得ることになったのです。一人の人の不従順によって多くの人が罪人とされたように、一人の従順によって多くの人が正しい者とされるのです。

福音書朗読：マタイによる福音書 4章 1-11節

さて、イエスは悪魔から誘惑を受けるため、“霊”に導かれて荒野に行かれた。そして四十日間、昼も夜も断食した後、空腹を覚えられた。すると、誘惑する者が来て、イエスに言った。

「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ。」イエスはお答えになった。「『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』と書いてある。」

次に、悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて、言った。「神の子なら、飛び降りたらどうだ。『神があなたのために天使たちに命じると、あなたの足が石に打ち当たることのないように、天使たちは手であなたを支える』と書いてある。」イエスは、「『あなたの神である主を試してはならない』とも書いてある」と言われた。

更に、悪魔はイエスを非常に高い山に連れて行き、世のすべての国々とその繁栄ぶりを見せて、「もし、ひれ伏してわたしを拝むなら、これをみんな与えよう」と言った。すると、イエスは言われた。「退け、サタン。『あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ』と書いてある。」そこで、悪魔は離れ去った。すると、天使たちが来てイエスに仕えた。

讚美歌 520 番

- 1 静けき河の岸辺を 過ぎ行くときにも 憂き悩みの荒海を 渡り行くおりにも
※こころ安し 神によりて安し
- 2 群がる仇は 猛りて 困めど 攻むれど 誘う者の ひしめきて 望みを砕くとも ※
- 3 嬉しや 十字架の上に 我が罪は死にき 救いの道 歩む身は ますらおのごとくに ※
- 4 大空は巻き去られて 地は崩るとき 罪の子らは騒ぐとも 神による御民は ※ アーメン

説教：「人はパンだけで生きるものではない」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

教会の暦は、四旬節に入りました。先週の水曜日には、「灰の水曜日」の夕礼拝をともに持たせていただきました。四旬節に私たちはイエス様が苦しみを受け、十字架につけられてくださったことは私のためであったということをお覚えます。イエス様は十字架で死なれたあと、約束の通り三日目によみがえってくださいました。私たちは四旬節のあと、イースター、復活日にお祝いすることです。

イエス様は私たちのために苦しんでくださったと申し上げました。本日開かれた聖書の箇所は、イエス様が私たちのために信仰をくじこうとする誘惑を受けられたところです。イエス様は打ち勝ってくださいました。私たちが一番必要としているのはこのイエス様を信頼する信仰です。けれども、私たちの一番弱いところは、自分の力で信仰を持つことができないこと、自分の力で信仰を強めることができないことですね。イエス様は私たちのために苦しんでくださいました。私たちが神様を信頼して、そその信仰が育つように、慰め励ましてくださいます。

多くの人は、自分の意志が弱いということや、自分のメンタルが弱いということで悩みます。なかなか決心がつかない方、自分に自信を持つことができない、何ごとも中途半端に終わってしまう、何かを始める前から失敗したらどうしようかと考えてしまう、自分をしっかり持つことができないでいつも周りの人々が気になって心を左右されやすい、というような、こんな悩みを持つ方が多くおられます。自分ではなく神様を信頼する信仰がそれらに打ち勝つ秘訣です。

また、その反対に、自分は人に左右されるのが好きではないので、たぶん人と比べると割合に意志が強いほうではないか、という方もおられます。人生の大切なことは何とか自分で責任をもって決めてきた、という方です。けれどもそうはいっても、ことイエス様を信頼して歩む信仰については、自分の力は頼りにならない、という真実をお感じになっているという方が多くおられます。神様を信頼する信仰はみ言葉によって私たちの内に作られ、育てられるものです。

イエス様は三種類の信仰の誘惑に会ってくださいました。神様から目を離そうとする誘惑です。第一は神様ではなく神様の与えてくださるものに信頼しようとする誘惑、第二は、本当に神様は守ってくださるだろうかと疑ってしまう誘惑、第三は、神様を信じるといしながら世渡りのために近道を通る妥協の誘惑でした。

イエス様はその誘惑にどのように打ち勝たれたのでしょうか。神様のみ言葉を告白することによって打ち勝たれました。自分の力や意志の力ではなくて、このように聖書に書いてある、と言って、聖書の約束は、この私のためにある、ということ告白して誘惑に打ち勝たれました。信仰をつくって、信仰を完成してくださるのはイエス様です。ですからイエス様から目を離さないでいることです。

イエス様が荒野でお受けになった第一の誘惑は、神様ではなく、神様が与えてくださるものに信頼する、という誘惑でした。おなかがすいているでしょう、石をパンに変えたらどうですか、という誘惑でした。イエス様は荒野でひとりで四十日間、食べ物を口にしないで過ごされたから、おなかがすいていました。悪魔はイエス様は神の御子だと知っていたので石からパンを作ることは簡単なことだと知っていました。それなら証明してみよ、と言っています。「もしあなたが神の御子なら、ころがっている石をパンにして食べたらどうだ」と言いました。

神様はパンを与えてくださるお方です。その昔、モーセに率いられて奴隷の地であったエジプトを脱出したイスラエルの民は、荒野をさまよいました。食べ物がなくなって不平を言いました。神様は「マナ」という、パンのような食べ物を毎朝与えてくださいました。民は神様からのパンによって養われました。おなかがすいたときはごはんを与え、勉強ができないとき知恵を与え、素敵な家族を与えてくださいます。イエス様は、人はパンだけでいけるものではない、と言われました。申命記8章3節のみ言葉です。生きるためにパンは必要です。神様は必要なものは喜んで私たちに与えてくださいます。マタイの福音書6章33節にも「神の国と、神の義とを、まず第一に求めなさい、これらのものはすべて、添えて、与えられます」とあります。

けれども人はパンだけでいるものではない、とされているのは、私たちがパンのことだけを考えてパンを与えてくださる神様を忘れやすいことを教えています。ここで大切なのは、私たちが「神様の口から出るひとつひとつのみ言葉によって生きる」というイエス様のみ言葉です。パンという神様からの贈り物に心が奪われて、与えてくださる方である神様から目が離れてしまいます。私たちは実際には頼りにならない富や財産に信頼します。むしろ大切なのはすべてのものを豊かに与えて楽しませてくださる神様に望みを置くことです。

神様は私たちのためにイエス様をお与えくださいました。イエス様は十字架にかかって私たちの神様の前で罪をすべて赦してください、神様の子どもとしてくださいました。私たちは確信をもって「わたしの天のお父様、わたしをあわれんでください」と祈り、神様はあなたを、大切なわが子よ、と呼んで、必要なものを必要なだけ惜しみなくお与えくださいます。隣人にもっと役に立って生きるために、今与えられているものを磨き、必要と思うものを神様に求めましょう。イエス様はご自分が苦しみを受けて、あなたがすべてを与えてくださる神様に目をとめて信頼して歩むように、あなたを導いてくださいます。人はパンだけで生きる者ではなく、パンを与えてくださる神様のみ言葉を食べ物のようによく聞いて、信頼して歩みましょう。

さて、第一の誘惑でイエス様はみ言葉をもって試みを退けて勝利されたので、第二の誘惑では、試みる者は聖書の言葉をもってきました。パンだけで生きるのではなく神様のみ言葉によって生きるというのなら、これはどうだ、と第二の誘惑を繰り出しました。この第二の誘惑は、神様を疑ってしまう誘惑です。むしろ自分の判断に信頼する、という誘惑です。神様によく聞いて決めるのではなく、直感や雰囲気や軽はずみに決断する誘惑です。この誘惑に負けてしまうとき、時には思い切った勇気のあるかっこいい信仰の姿に見える快感が伴います。人々の喝采もあびるかもしれません。しかし、その実、自分の願いを押し通して、そのために神様のみ言葉を都合よく用いていくこととなります。とてもずるがしこい在り方です。

悪魔はイエス様を聖なる都エルサレムの神殿の高い屋根の上に連れていきその端に立たせて、「イエスよ、あなたがいうようにもし本当にあなたが神の子なら、神殿の屋根から飛び降りてみよ、『神があなたのために天使たちに命じると、あなたの足が石に打ち当たることのないように、天使たちは手であなたを支える』と書いてあるではないか」と誘惑しました。イエス様は、「『あなたの神である主を試してはならない』とも書いてある」と言われました。

悪魔は旧約聖書詩編91編のことばを引用してイエス様に誘惑を試みました。確かにそこには、天使たちがあなたの足が石に打ち当たらないようにあなたを支えてくれる、と書いてあります。けれども文脈からよく見ると、それは高いところから飛び降りてもけがをしないように守られる、という意味ではありません。むしろ私たちが苦しみに会うとき、神様は頑丈な岩のように、逃げ込む私たちをしっかりと支えて、ちょうど親鳥が雛たちをその羽をもって覆い、翼の下にかばってくださるようあらゆる危険から守ってくださるということを教えています。天使が守ってくださるというのは、あなたがどんな道を歩むときも、天使がその手にあなたを乗せて運

んでくださって、あなたの足が石に当たって傷つかないように守り、むしろあなたを攻撃する獅子や毒蛇を踏みにじることができるようにしてくださる、ということです。

イエス様は「あなたの神様を試さないで」と言われました。それも聖書申命記6章16節のみ言葉です。神様が私を守ってくださるかどうかが証明するために高いところから飛び降りてみよう、天使が守ってくださる、と書いているのは本当に起こるのか、と神様を試すことは必要ありません。疑わなくてよいのです。心配しないで、困ったときは神様に信頼して助けと守りをいただきましょう。あなたのためにイエス様はご自分をお与えくださったほど、あなたは大切にされています。必ずお守りください。

第三の誘惑は、妥協の誘惑です。悪魔はイエス様を非常に高い山に連れて行きました。そこから世の中のすべての国々とその繁栄ぶりを見せました。「もし、ひれ伏してわたしを拝むなら、これをみんな与えよう」と言いました。イエス様はそもそもすべての国の人々の罪を赦して、神様の子どもにするという使命をもってお生まれくださっています。また、その働きのために公けの歩みをはじめ、バプテスマのヨハネから洗礼を受けて、これから人々の間に入って行って、真理を教えたり、病をいやしたりし始めます。悪魔と妥協すると、十字架や苦しみを受けることなく、いとも簡単に人々を治めることができるという誘惑です。

イエス様は「退け、サタン。『あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ』と書いてある。」と言われました。これは申命記6章13節のみ言葉です。二つ心になって、神様に信頼するといいながら、妥協して世の知恵を信頼する誘惑に打ち勝ってくださいました。悪魔は離れ去り、天使たちが来てイエスに仕えたと記されています。

イエス様は三種類の誘惑に、み言葉をもって応答されました。私たちにイエス様をお与えくださるほどに私たちを大切にしてくださいる神様に信頼することは幸いです。贈り物に心奪われ、疑い、妥協することで神様から目が離れてしまいます。イエス様はあなたのために誘惑に会い、そしてあなたのために打ち勝ってくださいました。イエス様とともに私たちに必要なものを豊かに与えてくださる神様に信頼し、疑わず、妥協しないで神様に信頼する信仰を、イエス様はみ言葉によってあなたの心に作り出し、また育ててくださいます。この一週間、様々な誘惑や試練がありますが、神様から目を離さないで信頼し、人々の役に立つように自分を鍛え、隣人とともに幸せをつくっていきましょう。イエス様はあなたが神様に信頼して歩むように、み言葉によってあなたを導いてくださいます。

イエスはお答えになった。「『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』と書いてある。」 マタイによる福音書4章4節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくださいます。アーメン

讚美歌 121 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 まぶねの中に 産声あげ 木工(たくみ)の家に 人となりて
貧しき憂い 生くる悩み つぶさになめし この人を見よ
- 2 食するひまも うち忘れて しいたげられし 人を訪ね
友なき者の 友となりて 心碎きし この人を見よ
- 3 すべてのものを 与えしすえ 死のほか何も 報いられて
十字架の上に 上げられつつ 敵を赦しし この人を見よ
- 4 この人を見よ この人にぞ こよなき愛は あらわれたる
この人を見よ この人こそ 人となりたる 活ける神なれ **アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讚美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、あぁみ栄えよ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいぬがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏